

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600755	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	医療法人 光陽会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	245-0016		
	横浜市長区和泉町7315-7 いずみ光ビル2階・3階		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成26年1月16日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpJDetails.aspx?JGNO=ST1473600755&SVCD=320&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

週1回ハートケアいずみ訪問看護事業所の訪問看護があり、月2回横浜いずみ台病院外来Dr、歯科往診の往診がありますので健康面でのサポートがお部屋にしながら受ける事が出来ます。 人口透析を受けられている方も横浜いずみ台病院の外来透析にて対応することが出来ますので、御安心して御入居が出来ます。 若年性認知症の積極的に受け入れを行っております。 生活保護を受給されている方の御入居相談もご相談下さい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年3月17日	評価機関 評価決定日	平成26年6月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

相鉄線「いずみ野」駅よりバスで6分の「ひなた山第一」バス停より徒歩1分の幹線道路沿いにあるグループホームです。周りは畑や公園もある住宅地です。1階が小規模多機能型居宅介護施設、通所介護事業所、2階、3階がグループホームで医療法人光陽会が運営しています。 <優れている点> 事業所は医療法人が運営しており、法人の医師の往診や訪問看護師の来所などがあり、24時間緊急連絡体制を整えています。通院支援、疾病に合わせた食事提供、じょくそう防止への配慮など医療面でも手厚く、総合的なサービスの提供に努めており、利用者、家族にとっては安心した生活が送れています。また、事業所に隣接して大型ホームセンターと、すぐ近くにコンビニエンスストアがあり、利用者は散歩がてら、買い物をしたり、お店の花を眺めたりと気軽に立ち寄るなど周りの環境を活用しながら支援しています。 <工夫点> 事業所では、①感染症対策②事故対策③災害対策④虐待対策及び苦情⑤じょくそう対策の5つの委員会を設けて活動をしています。会議開催月には必ず議事録を作り、職員全員に回覧し情報共有を図っています。職員はこれらの委員会活動を通じて仕事への理解を深め、自己研さんをし、さらにスキルアップをしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームやすらぎ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている。	スタッフルーム、職員のネームプレートに事業所理念を掲示、または記載し実現に向けています。 研修や会議等を通じて理念を考える機会を設けています。	理念は玄関、廊下、事務所、食堂など、目につく所に掲示し、また職員の名札裏にも記載があり周知を計っています。常に理念に立ち戻るために、月1回ある合同会議においても、理念を根底にした各種研修などを行って、再認識と確認をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の清掃や運動会に参加したり、買い物を通じて地域の一員として住民と触れ合えるように援助しています。	自治会のさわやか運動に利用者と共に参加し、草むしりなど清掃活動をしています。自治会の運動会では、利用者が競技に参加して活躍し、普段と違った一面を見ることもできています。読み聞かせの地域ボランティアが定期的に来所しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	災害時等は地域と相互協力出来るような支援体制が出来るように取り組んでいます。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域住民及び利用者家族の方々、行政・関係機関の関係者様からの提案、要望があった際には速やかに検討の上、改善に向けている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、家族、自治会長、民生・児童委員、区役所職員、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。事業所の活動報告や意見交換をしています。参加者からの要望で、地域の防災拠点の確認をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や勉強会及び定例会、相談員の方に定期的にお越しいただき綿密な協力関係を築ける様取り組んでいる。	月1回、区の介護相談員が来所して利用者の声を聞いています。介護相談員との意見交換会は、事業所のサービス改善に活かしています。グループホーム連絡会や研修などを通じて行政と連携を取り、利用者の担当ケースワーカーとは常に協力関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関扉など施錠せず感知センサーを使用することにより極力抑圧感のないよう支援している。しかし夜間帯においては職員が一名での対応となる為、安全面を重視した対応となっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員交代時の申し送りや危険と思われる事柄に対しては書面にて注意をうながす等積極的に取り上げ、防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や研修会等年に数回参加し理解に努めている。しかしながら、選挙権の失効の点等も含めデメリットもある為慎重に対応したい。単身者ゆえ第三者からの観点は必要と感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前、契約時などその都度ご説明させていただいている。また、疑問等に関しても出来る限り詳しくご説明している。説明時間の長さ、難解な用語もある為考慮した上での説明を心掛けていきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情ボックスの設置、外部相談員を定期的に招く等意見や苦情を広く受け付けている。また法人内への意見等に関しては全ての事業所で検討し全体で改善出来る様努めている。	玄関の御意見箱や区の介護相談員を通じての利用者の意見や要望を受け、サービスの改善に役立てています。苦情に関しては、法人全体で検討して各事業所にフィードバックしています。ホームでは家族の意見を受けて、玄関に呼び鈴をつけています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回合同会議を行い参加している職員からの意見も受け付け検討、反映に努めている。	管理者は、定期的に勉強会で取り上げてほしいテーマをアンケートとして取ったり、一年間を振り返っての振り返りシートへの記載など、広く職員の意見を収集しています。合同会議での意見はすぐに検討するなど職員はいつでも提案や意見が言える環境があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力を最大限評価の上、責任者への途用、新規事業への参加、部署の転換等積極的に対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外共に研修へ年に数回は参加出来る様機会をつくり呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人、別法人に関わらず近隣施設との交流は大事にしている。情報交換や見学会等サービスの向上に努めている。交換研修を通じ、他のホームの良い所を吸収するようにしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談をしっかりと行い疑問や不安を取り去り円滑な入居生活が送れる様努めている。一部困難な場合も有り得るが出来る限りの妥協点などを提案し安心いただける様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談をしっかりと行い疑問や不安を取り去り円滑な入居生活が送れる様努めている。一部困難な場合も有り得るが出来る限りの妥協点などを提案し安心いただける様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームにてお手伝い出来る事、外部サービスを利用し出来る事を提示し利用者様、ご家族様が選択出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様個々の状況に合わせ御自分の居室や共用スペースの清掃、衣類整理等を行っていただいたりし良好な関係が築ける様心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際や電話連絡にて利用者様の生活状況をご説明している。また、イベント等の開催を書面にてお知らせし参加を呼び掛けたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人へは電話連絡などしていただき関係が途切れない様にお手伝いしている。場所に関しては遠方への要望が多く対応は難しい。	友人がホームに訪ねて来ることもあります。教会に通う利用者には職員が付き添っています。家族に電話をするお手伝いをしたり、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を大切にし、関係が少しでも継続できるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事やおやつの時間は食堂を利用し関わる機会を設けている。しかし個々の性格上の問題やプライバシーの観点もあり柔軟な対応にて行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご入院され退去となった利用者様へ面会に伺う事がある。また、退所した利用者家族様よりご相談を受ける事もあり、その際は出来る限りの支援を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面談時や日常における会話の際にお聞きし希望に添える様に申し送りや会議時検討している。	思いや意向をうまく伝えられない利用者には、二者択一など選べる情報にして写真や表などを提示しながら、表情、仕草の観察をしたり、これまでの蓄積データから本人本位に日常支援につなげています。情報はフロア会議で検討、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様から詳しく伺い反映させていただいている。また、行政機関へ協力を仰ぐ事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様個々に過ごし方等記録させていただき、特に問題点に関しては申し送りにて引き継ぎ状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の状況に合わせたケアの仕方、目標にむけ努力している。また、ケース会議等により意見を取り入れ参考にし、より良い介護サービスに努めている。	アセスメントをして、ADLの状況などを考慮し、利用者、家族の希望や職員、医療関係者の意見を採り入れ、介護計画を作成しています。3ヶ月に1回モニタリングを行い、計画の見直しを行うほか、必要に応じて随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録にこまめに記入し全職員間にて共有、実践に繋がる様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員全体でニーズに応えられる様検討し対応を行っている。また、関係機関への協力をお願いする事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物や散歩等外出時には店員や地域住民方々と積極的に触れ合える様心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様並びにご家族様の希望に沿った医療が受けられる様、かかりつけ医以外にも場合に応じ外部医療への受診など積極的に支援させていただいている。	入居前からのかかりつけ医を利用する場合、基本は家族対応ですが、専門外来には話し合いで職員の同行も行っています。運営法人の協力医がユニットごとに月2回、歯科医も月2回訪問しています。系列の訪問看護師の協力も得ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問に来る看護師に異常や変化等を相談し適切な医療が受けられる様努めている。また、訪問時以外にも異変には電話にて逐一相談し対応している。また訪問看護の看護師とも変化などは報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは日頃より情報交換など綿密な関係を築けている。また、研修会など交流の場もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時や場に応じて話し合い方針の共有を行っている。また、関係機関に対しても相談や協力をお願いしている。	看取りの実績があります。看取りのガイドラインを基に家族と医師と事業所の同意から実施することとしています。今年度は喀痰吸引の研修を済ませ、じょくそう対策委員会を中心に体位交換やエアマットを利用した内部の実務研修をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防機関へ依頼し指導の下訓練を行っている。上記以外にも勉強会にて学び対応出来る様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防機関へ依頼し定期的に総合消防訓練等を全職員に参加呼びかけ行っている。運営推進会議の際には自治会との相互協力について話し合っている。	災害対策委員会があり、防災計画や訓練の想定事例作成などを担当しています。訓練は年2回で夜間と昼間想定で行っています。併設の小規模多機能型居宅介護事業所との連携で役割を分担しています。訓練時には非常食のチェックを義務化しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに合わせた対応を心掛けて いるが利用者様によっては困難な場合 も見受ける。その為マナー研修を通し 具体的に再確認を行っている。	会議中に利用者が声をかけて来ても無 視や断らず、相手の人格に配慮した状 況判断で対応をするよう管理者は指導 しています。職業倫理と権利擁護の研 修では利用者権利と職員の個人権利を 事例から学んでいます。個人情報の取 り扱いについてはガイドラインに基づ いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自ら要望を出したり、決定が困難な利用 者様に対しては分かり易く選択制に する等対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	他入居者様に差しさわりが無く、遂行 上可能な希望に関しては最大限考慮し ています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	普段着と外出着を分けて着用いただい たり、夏祭りや花火大会には浴衣、甚 平を着用いただくなど場の雰囲気 に合った服装への支援に努めている。 2ヶ月に1回訪問美容院に来て頂き、 希望に沿ったヘアカットをしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本、薄味での提供となる為支障のな いご利用者様に対しては調味料の追加 も行っている。配膳や下膳、台拭き等 可能な方に関しては一緒に行ってい る。	主食は毎食単位に冷凍パックで届けら れ調理しています。パンビュッフェで は各種パンと挟み込み具材を用意して 楽しんだり、出張ニギリ寿司や遠足で バーベキューを楽しんでいます。また、 外食で回転寿司も利用しています。時 により居室での食事にも対応してい ます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせた食事摂取量、水分摂取量を把握し適切な対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立にて口腔ケアの行える方に関しては見守りや促しを、自立の難しい方に関しては個々に応じた介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	それぞれの身体状況に合わせた対応、支援を行っている。また、定期的に誘導等を行いトイレでの排泄支援を心掛けている。	トイレでの排泄を基本としています。排泄表から個人の排泄パターンを読み取り、自立の方には注意と見守り、支援の必要な方にはトイレへのさりげない誘導を続けています。便秘にならないように水分補給に気をつけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師や看護師へ相談、意見を仰いだ上でそれぞれに合った予防対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否された方に対して順番を変え再度伺ってみたり、過度な勧誘をせず後日に変えてみたりと尊重した対応を心掛けている。	入浴は概ね週2回ですが退院時や失禁など状況に応じて柔軟に対応しています。無理強いはしませんが、「寒さは嫌」「あの人の後は嫌」「今は入りたくない」などの拒否する理由を見つけ理解して対処しています。個人用シャンプー、リンスなどがあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様一人ひとりの状況に合わせた支援に努め、リラックスできる様に配慮を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬情報に関しては全職員が把握、理解出来る様処方箋を個人ファイルに綴じ閲覧出来る。また、服薬の変化に関しても申し送りや記入により把握の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご入居者一人ひとりの状況に合わせ、清掃や洗濯物畳み等無理のない範囲で行っている。嗜好品に関しては身体状況を考慮した上で相談させていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご入居者の希望に沿える様買い物や散歩等支援させて頂いている。ご家族のいらっしゃる方に関しては無理のない程度にて外出頂いています。	日常の買い物外出には隣接する大型ホームセンターや近くのコンビニエンスストアへ出かけています。外気浴を兼ねてホーム周辺を散歩しています。春と秋は車で遠出をしており、現地合流で家族の参加も行っています。毎月家族の協力で自宅帰りもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭感覚への認知がみられないご入居者に関しては個々の状態に合わせ希望時に使える様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	業務に支障がきたさない範囲での電話や手紙などのやりとりを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極力余計な物を置いたりせずシンプルな空間にしている。また七夕やクリスマスなど季節感のある行事に関する装飾に関しては積極的に取り入れている。	感染症対策委員会は同ビル内の5事業所と連携し定例清掃を実施しています。消毒を中心にドアノブや各出入り口の靴消毒マットから室内の環境美化も担当しています。換気は朝夕に夜勤者が実施し、布団シーツやカバーの交換時にも気を付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	特別、指定の席などを設けずご入居者のその時の気分に添える様居場所を提供させて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	予め相談させて頂いた上で極力ご希望に沿った居室を用意させて頂いている。	入居時の持ち込み品などは事前の案内文で家族に知らせして困惑を防いでいます。3階居室には畳敷きの部屋もあります。家族の写真や思いの書画も飾っています。折り畳み椅子を用意して、家族の面会時に居室で談笑する方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者個々の状態を把握したうえで出来る事を無理のない範囲で行って頂いている。		

事業所名	グループホームやすらぎ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフルーム、職員のネームプレートに事業所理念を掲示、または記載し実現に向けています。 研修や会議等を通じて理念を考える機会を設けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の清掃や運動会に参加したり、買い物を通じて地域の一員として住民と触れ合えるように援助しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	災害時等は地域と相互協力出来るような支援体制が出来るように取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域住民及び利用者家族の方々、行政・関係機関の関係者様からの提案、要望があった際には速やかに検討の上、改善に向けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や勉強会及び定例会、相談員の方に定期的にお越しいただき綿密な協力関係を築ける様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関扉など施錠せず感知センサーを使用することにより極力抑圧感のないよう支援している。しかし夜間帯においては職員が一名での対応となる為、安全面を重視した対応となっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員交代時の申し送りや危険と思われる事柄に対しては書面にて注意をうながす等積極的に取り上げ、防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や研修会等年に数回参加し理解に努めている。しかしながら、選挙権の失効の点等も含めデメリットもある為慎重に対応したい。単身者ゆえ第三者からの観点は必要と感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前、契約時などその都度ご説明させていただいている。また、疑問等に関しても出来る限り詳しくご説明している。説明時間の長さ、難解な用語もある為考慮した上での説明を心掛けていきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情ボックスの設置、外部相談員を定期的に招く等意見や苦情を広く受け付けている。また法人内への意見等に関しては全ての事業所で検討し全体で改善出来る様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回合同会議を行い参加している職員からの意見も受け付け検討、反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力を最大限評価の上、責任者への途用、新規事業への参加、部署の転換等積極的に対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外共に研修へ年に数回は参加出来る様機会をつくり呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人、別法人に関わらず近隣施設との交流は大事にしている。情報交換や見学会等サービスの向上に努めている。交換研修を通じ、他のホームの良い所を吸収するようにしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談をしっかりと行い疑問や不安を取り去り円滑な入居生活が送れる様努めている。一部困難な場合も有り得るが出来る限りの妥協点などを提案し安心いただける様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談をしっかりと行い疑問や不安を取り去り円滑な入居生活が送れる様努めている。一部困難な場合も有り得るが出来る限りの妥協点などを提案し安心いただける様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームにてお手伝い出来る事、外部サービスを利用し出来る事を提示し利用者様、ご家族様が選択出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様個々の状況に合わせ御自分の居室や共用スペースの清掃、衣類整理等を行っていただいたりし良好な関係が築ける様心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際や電話連絡にて利用者様の生活状況をご説明している。また、イベント等の開催を書面にてお知らせし参加を呼び掛けたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人へは電話連絡などしていただき関係が途切れない様にお手伝いしている。場所に関しては遠方への要望が多く対応は難しい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事やおやつの時間は食堂を利用し関わる機会を設けている。しかし個々の性格上の問題やプライバシーの観点もあり柔軟な対応にて行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご入院され退去となった利用者様へ面会に伺う事がある。また、退所した利用者家族様よりご相談を受ける事もあり、その際は出来る限りの支援を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面談時や日常における会話の際にお聞きし希望に添える様に申し送りや会議時検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様から詳しく伺い反映させていただいている。また、行政機関へ協力を仰ぐ事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様個々に過ごし方等記録させていただき、特に問題点に関しては申し送りにて引き継ぎ状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の状況に合わせたケアの仕方、目標にむけ努力している。また、ケース会議等により意見を取り入れ参考にし、より良い介護サービスに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録にこまめに記入し全職員間にて共有、実践に繋がる様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員全体でニーズに応えられる様検討し対応を行っている。また、関係機関への協力をお願いする事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物や散歩等外出時には店員や地域住民方々と積極的に触れ合える様心掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様並びにご家族様の希望に沿った医療が受けられる様、かかりつけ医以外にも場合に応じ外部医療への受診など積極的に支援させていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問に来る看護師に異常や変化等を相談し適切な医療が受けられる様努めている。また、訪問時以外にも異変には電話にて逐一相談し対応している。また訪問看護の看護師とも変化などは報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは日頃より情報交換など綿密な関係を築けている。また、研修会など交流の場もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時や場に応じて話し合い方針の共有を行っている。また、関係機関に対しても相談や協力をお願いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防機関へ依頼し指導の下訓練を行っている。上記以外にも勉強会にて学び対応出来る様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防機関へ依頼し定期的に総合消防訓練等を全職員に参加呼びかけ行っている。運営推進会議の際には自治会との相互協力について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに合わせた対応を心掛けているが利用者様によっては困難な場合も見受ける。その為マナー研修を通し具体的に再確認を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自ら要望を出したり、決定が困難な利用者様に対しては分かり易く選択制にする等対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	他入居者様に差しさわりが無く、遂行上可能な希望に関しては最大限考慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	普段着と外出着を分けて着用いただいたり、夏祭りや花火大会には浴衣、甚平を着用いただくなど場の雰囲気合った服装への支援に努めている。 2ヶ月に1回訪問美容院に来て頂き、希望に沿ったヘアカットをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本、薄味での提供となる為支障のないご利用者様に対しては調味料の追加も行っている。配膳や下膳、台拭き等可能な方に関しては一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせた食事摂取量、水分摂取量を把握し適切な対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立にて口腔ケアの行える方に関しては見守りや促しを、自立の難しい方に関しては個々に応じた介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	それぞれの身体状況に合わせた対応、支援を行っている。また、定期的に誘導等を行いトイレでの排泄支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師や看護師へ相談、意見を仰いだ上でそれぞれに合った予防対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否された方に対して順番を変え再度伺ってみたり、過度な勧誘をせず後日に変えてみたりと尊重した対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様一人ひとりの状況に合わせた支援に努め、リラックスできる様に配慮を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬情報に関しては全職員が把握、理解出来る様処方箋を個人ファイルに綴じ閲覧出来る。また、服薬の変化に関しても申し送りや記入により把握の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご入居者一人ひとりの状況に合わせ、清掃や洗濯物畳み等無理のない範囲で行っている。嗜好品に関しては身体状況を考慮した上で相談させていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご入居者の希望に沿える様買い物や散歩等支援させて頂いている。ご家族のいらっしゃる方に関しては無理のない程度にて外出頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭感覚への認知がみられないご入居者に関しては個々の状態に合わせ希望時に使える様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	業務に支障がきたさない範囲での電話や手紙などのやりとりを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極力余計な物を置いたりせずシンプルな空間にしている。また七夕やクリスマスなど季節感のある行事に関する装飾に関しては積極的に取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	特別、指定の席などを設けずご入居者のその時の気分に添える様居場所を提供させて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	予め相談させて頂いた上で極力ご希望に沿った居室を用意させて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者個々の状態を把握したうえで出来る事を無理のない範囲で行って頂いている。		